

発言者	発言内容
啓発事業	
委員長	○ 最初に啓発事業である教育広報番組の出演に関連して、御意見御感想がありましたら、お願いしたい。
委員	○ 教育広報番組で認知症図書館プロジェクトと本の処方箋プロジェクトについて取り上げてもらった。コロナの状況があったため、取材が難しいと思っていたが、感染が拡大していなかった時期でもあり、市内の薬局が早く取材を引き受けてくれた。読書、教育、福祉の連携という趣旨でTV局側が内容を考えてくれた。 ○ 現在も活動を続けており課題もあるが、事業を知ってもらえたことは良かった。
委員長	○ チャレンジ読書公募提案型モデル事業について美郷町の動きも含めて、美郷町から感想をお願いしたい。
委員	○ 美郷町の読書ボランティアの提案が採択され、鈴木まもるさんが美郷町に来てくださり、ボランティアとの交流、森林観察会等を計画していた。美郷町内に3つの図書館があり、それぞれボランティア同士の交流の場もなかなかできない状況だったので、皆さん楽しみにしていたが、中止となった。 ○ ボランティアの計画としては、五十鈴川、耳川、小丸川を有する美郷町なので、「みずとはなんじゃ」から、内容を深めていこうという計画だったようだ。鈴木まもるさんも是非行きたいとおっしゃっていたので、残念であった。 ○ 今、ボランティアは、学校での朝の読み聞かせで活躍している。次年度以降、交流等で町内の子どもたちの読書活動推進に資することができるとよいと話をしている。 ○ 採択になった際、委員長から大学との交流の提案もいただいたがそれもできずに残念であった。それも次年度やれるとよいと思っている。
委員長	○ 木城中の取組が紹介されていたが、関わっている点があれば紹介していただきたい。
委員	○ 木城中学校には、木城小学校の児童が進学する。木城小学校では、20年程前から学期ごとに各クラスでお話会を行っている。そのため、中学校の生徒は、興味はある。しかし今まで学校図書館には人もいなくそのままの状態だった。県の指定を受けたことで先生、生徒が頑張り、素敵な図書館になったと感じている。しかし、司書がいればもっと早く良くなっているのではないかと感じている。小学校には司書が配置されている。司書が配置されている小学校から中学校に上がった時に、人がいないことは残念という気がしているので人の配置があると良い。
委員長	○ 認知症図書館プロジェクトが広報に載ったのは、読書という狭いイメージを広げるものになったのではないか。良い視点で取り上げてもらった。 ○ 生涯学習、地域との連携という形で取り上げられたのは大きな成果と思っている。まだまだ狭い意味で捉えられており、読書が社会的課題を解決していくツールになるということも見えた。広報に載せる意味が十分に達成されたのではないか。 ○ 多様な活動をしている方がまだいる。続けて番組に載せていくと反響がある。様々な読書活動をプレスリリースしていくと県民の方への啓発になる。

発言者	発言内容
人材育成事業	
委員	○ 読書サポーター活動について、自分が所属している団体のメンバーから宮崎市の実施日についての問い合わせがあった。他市町村については、実施日が資料に掲載されているが、宮崎市はどうだったのか。
事務局	○ 本事業については、3年計画とし、3年かけてすべての市町村で実施する計画である。本年度コロナの影響で実施できなかった市町村もあるので、その市町村も含め、来年度以降に実施予定である。
委員	○ 宮崎市の管轄は、中部教育事務所となるのか。本年度は中部教育事務所が新富と西都で実施し、来年度宮崎市で実施ということか。
事務局	○ 本来は、4か所での実施を予定していたが、コロナの影響で実施できなかった。そのため、実施できなかった市町村については、次年度以降に実施する。
委員長	○ リーフレット作成について、何かありますか。
委員	○ リーフレットの作成については、基本的な本の選定を県立図書館担当が行い、これをベースに掲載する本を選定した。選定作業を行うメンバーは大変熱心で、子どもたちに良い絵本、楽しい絵本にふれあわせたいという思いで選定した。 ○ コンセプトとして、若いお母さんはもとより、日頃なかなか読み聞かせをする時間が無いお父さんにも絵本を手にとってもらい、それをきっかけに、体操や遊び、ゲームにつながっていくような本を選定した。初めて絵本に出会う時に、手が伸びやすいような、ウキウキするようなことをテーマに言葉を添えさせてもらった。 ○ リーフレットの大きさから協議した。挿絵についても議論をしたので出来上がりを楽しみにしている。皆様も楽しみに待っていただきたい。
委員	○ 読書サポーター養成講座は小林でも実施された。受講希望が多く、コロナの影響で人数が限られ、受講がかなわなかった方もいると聞いた。若いお母さん方が家庭や、学校、保育園、幼稚園で読み聞かせをしたいという思いがある事を感じたと講師から聞いた。以前もこのような研修があり、その後、しばらく無かったが、今回は若い方の参加が多かったと聞いている。えびの市の会場では、高校生が参加し、「将来、保育士になりたいので今回受講しました。」という話があったことも聞いている。教育委員会が県全体で取り組むことは、高校生も、お年を召された方も参加しやすいと思っている。 ○ 3年間の事業と聞いているが、持続的に長いスパンで研修を行ってもらえないか。
事務局	○ 平成21年度に県の事業終期を迎え、約10年間空白の時期があった。関わる方の人数が少なくなってきている現状も踏まえ、新しい事業に組み入れたが、継続して皆様と一緒に読書県づくりに取り組むことが大事と思っている。この事業については、令和4年度で終了し、令和5年度から新しい事業になる。事業内容について、皆様から意見を賜ることができれば、そのことをエビデンスとして新しい事業に組み入れていきたい。

事務局	<p>○ 前回は振り返ると、市町村との連携が弱い部分があった。今回の事業により、市町村での事業化という流れができないかと思っている。研修を増やすということは県だけでは限界があるので、市町村と連携しながら、研修機会の拡大に努めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>○ リーフレット作成はすばらしい。読み聞かせの講座や研修とのつながりがあり、どのような本が良いのかを、単発で紹介するだけではなく、連携していることがよい。「家庭で本を読むと自分の好きな本、子どもが喜びそうな本を選んでしまうが、研修に出ると自分では選ばないような本に出会うことができる。こんな本があるということを学ぶ機会にもなる。リーフレットができるといいな。」という声を聞いたことがある。時期を得た取組だと感じた。</p>
委員	<p>○ 人材育成事業の読書サポーター事業、幼稚園等職員向けの読み聞かせの研修などは意義があると思う。総合推進事業の図では、読書に親しむ大人、自己啓発のために本を読む大人、を目指しているとあるが大人向けの人材育成をどうすべきか。大人の人材育成にも取り組むことができるとよいのでは。</p> <p>○ リーフレットはどのように配られるのか。書店に配ってもおもしろいのではないか。児童書売り場に置いて、参考にしてもらおうと購買意欲につながるのではないか。もし、書店に置くのであれば、次回は定価を入れて欲しい。</p>
委員長	<p>○ 今年度は学生向けの読み聞かせ講座については、対面が全く実施できなかったため、オンラインで行った。読み聞かせに参加する機会が学生には無かった。学生については、次年度、読み聞かせをする学生を募る機会があるので、その際に実施すればよいと思っているが、県内の様々なところで同様の事態になっているのではないかと思う。自分の息子の幼稚園に読み聞かせサークルがあるが、今年度は一度も実施されていない。一年ごとに代表が代わるサークルについては、うまく継承されているのか心配がある。ボランティア養成研修のニーズはあるのではないかと思う。したいという要望ではなく、必要性としてある。コロナが治まった後、何が起こるかという、県の財政は縮小されていく。しかし、研修事業は残していただきたい。ボランティアの方々の要求、学校との関係のあり方をきちんとつかまえて対応していければと大学人としては思う。</p>
委員	<p>○ 今年度、高校生向けの研修会が一切実施できなかった。職員は情報のやりとりを書面で行ったりした。来年度は、生徒向けの研修を復活させ、読み聞かせの研修を取り入れていけるよう提案できたらと思う。親御さんが子どもに絵本の読み聞かせをするという種を植えるためにも、高校生の中で研修を受けたことがある、実践したことがある、ということが今後役に立つのではないかと思った。</p>
事務局	<p>○ 大人の読書活動について、チャレンジ読書公募提案型モデル事業については、大人を対象としている。今年度の参加者から、自分のために絵本を読んでもらったのが良かったという感想を多くいただいた。読み聞かせだけでよいという訳ではないが、今後も大人の読書活動推進に取り組んでいきたい。</p>

	○ リーフレットの配布予定は、市町村、図書館を予定している。書店に置いてという意見は、幹事会でも出されている。書店で、子どもにどの本を買えば良いか迷っている方の参考にもなると思っている。書店との調整が必要と思うので、今後調整を行っていききたい。
委員	○ リーフレットの出来上がりはいつか。
事務局	○ 今年度中の出来上がりを予定している。配布はその後を予定している。
委員	○ 大人に対しての取組はどの位置にあるのか。福祉的には色々なサポーターがあり、サポートしている人たちに読書サポーターのような視点を入れ、本を届けると同時に新たな気づき、学びを促すと同時に、新たな関係性として取り入れられることもあるのではないかと少し思っている。いろいろな世代に対する支援、高齢者に対する読書支援はどうなのか、取組の一つに、大人の絵本があった。このような事が広がると、読書の世界が広がるのではないか。
事務局	○ サポーター事業については、いろいろな読書活動を想定している。長年読書活動に携わっている詳しい方にマイスターになっていただき、広めようと思っている。 ○ 今回のサポーター事業の構築時、前回の事業の反省として、ボランティアの方を育成した後、活躍の場が無かったことがある。学校しか活躍する場がなかった。今、委員からの意見にも合ったように、以前は、子どもたち中心に行われていたが、大人同士であったり、子どもが高齢者に読み聞かせをしたりといった実践もあるので、今回のサポーター養成講座でも教育事務所の判断で、小中学生については保護者の送迎があれば受講可能としている。その中で、高校生の参加があった。 ○ 今回、市町村教育委員会と連携して実施している。その後の活躍の場、ニーズがどこにあるのか、例えば、病院や高齢者施設等、受講者の活躍の場をマッチングしていただくことを意識している。
環境整備	
委員	○ 本で世代をつなぐ事業について、県書店商業組合との連携は具体的にどのような連携を行ったのか。
事務局	○ ポスターや募集チラシの掲示を書店商業組合に依頼したと聞いている。
委員	○ 学校司書の配置について、令和元年度の学校司書の配置状況が示されているが、県立学校には全て学校司書が配置されているという理解で良いのか。その上で、16校に学校司書の配置についてとあるのが矛盾を感じる。
事務局	○ 学校司書の配置については、高校教育課に確認する。
全体を通して	
委員	○ 今年度はコロナの影響で自分たちの団体の活動ができなかった。Zoomを活用し、読書普及協会のOB15人くらいで本の紹介、講演会が一度できただけである。自分に余裕ができてきたらやりたいことがたくさんある。 ○ コロナの中でも様々な取組がなされていて素晴らしいと思った。励みにしてやっていききたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもから大人まで読書活動の推進には、さまざまな視点からの取組が必要と思っている。今回の取組、どれをとっても素晴らしいと思っている。 ○ 本年度で事業が終了するものがある。今後の事業について、継続化を着眼的にした事業、例えば、これは3年間、これは中期的、これは長期的に県民に根付いた事業にする、というものがあるのか、それとも、3年間と決まっているのか知りたい。本で世代をつなぐ読書活動推進事業は本年度で終わるが、とても素晴らしい事業だった。小林市立図書館では、受賞者の本とリーフレットを一緒に置いて展示をしている。次年度は、是非、小林から受賞者を出したいと話しながら展示をしている。やっとこのような取組が根付いてきた、広がりが見えてきたときに事業が終了することが残念。素晴らしい取組は継続化を図ってもよいのでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動については、県教育振興基本計画施策3に読書県づくりの推進が掲げられているので、すぐに終わるということはないと思っている。おっしゃることはよくわかり、やっていかないといけない事業ということはわかっている。読書活動推進委員の皆様の意見が、事業構築の際の大きなバックボーンとなっている。どこに焦点を当てていくのかという視点からもご意見をいただきたい。今日はたくさんのお押しをいただいたと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動推進委員会の最初のメンバーとして入ってずっと参加させていただいている。はじめは、読書をどのように定義するのかというところから、本当に本が好きなメンバーが集まり、すてきな会で、楽しく参加させていただいたのを思い出した。1年目より内容が具体的になっており、実際に実現され、色々な成果につながっていると感じながら話を伺っていた。特別支援学校に所属しているが、自分の業務としては関わることがあまりできず、具体的な活動はできていないが、所属は関係なく、一保護者として、一主婦として思ったことをお伝えしたい。 ○ 読み聞かせ講座について、保護者の研修の一つとして読み聞かせをテーマに研修を行うと、知っている保護者同士で気軽に参加できる会として実施できるのではないか。 ○ リーフレットについては、読み聞かせのポイントが書いてあり、すごく良いと感じた。置き場所について、例えば、銀行に置いたり、病院に置いたり、ちょっと待ち時間があるような場所にあると、手に取るきっかけになるのではないか。 ○ サポーターの活躍の場について、会議や研修など保護者が子ども抜きで楽しんだり、学習したりする際、保育の場を提供しているところがある。そのようなところにつながられるとサポーターの場所は広がっていくのではないか。そのためには、いつ、どこで、どのような機会があるのかといった情報の提供も必要。また、どのような方に知らせればよいのかといった双方の情報提供のシステムがあると良い。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今、PTA の研修でも読み聞かせ研修会を開いたらという提案を受けた。家庭教育学級を年1～4回している学校がほとんどなので、そのような場できないか、つないでいきたい。 ○ 個人的には、息子も読書をする方ではないと感じている。本屋に行き買おうとするが何を買えば良いかわからない。本屋にリーフレットがあるとわからない親でも子どもに勧めるヒントになる。 ○ 電子図書と読書の違いがどう違うのか。大人が電子図書を読んでいると、子どもの中ではYouTubeを見ているとしか見えないのかなと思う。親が本を読む家庭は、子どもも本を読むということを知る。電子図書と読書の違いをよく理解することが子どもにつながるようになるのではないかと。読書が大事だと伝える人、サポーターだったり、マイスターだったりが増えていくと読書活動が充実していくのではないかと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の事業のまとめを、県民全ての人のための読書推進という視点、ぬけはないかという視点で見た。働く世代、大学生、周産期、外国人の視点が足りないのかなと感じた。特に、働く世代について、自殺者の増加が気になっているが、支えになるのも本だと思う。仕事のための読書もあって良い。ノウハウ本等自分で探していると思うが、若い世代のうちから伝えられたらと思う。 ○ 内容としての抜けはないかと考えた時、文学を対象としたイメージが抜けていないのではないかと。絵本のリーフレットには、科学絵本やわかったことを喜びとする絵本が含まれていることを期待している。何かを調べて自分の身につけるもの、生き方、仕事に生かしていく内容も意識すべきではないかと感じた。 ○ 最近出版された秋月鶴山の本の中に、江戸の部屋詰め時代、色々な本を読んだ、自分が藩主となった後にどのような施策を行うか暖めていた、という記述があり、やはり読書によって培われたもので、人は次のものを掴んでいくと心強く思った。研修センターでの先生向けの研修では、「わからない」を「わかる」ようにするための方策を、本を絡めて指導する力をつけて欲しい。 ○ 3年くらい前、「AI vs 教科書が読めない子どもたち」という本が出て、衝撃的だと思ったが、3年後、まだまだ進んでいると思っている。AIに奪われない仕事、力は、高度な読解力と常識、人間らしい柔軟な判断が要求される仕事だ、とあった。図、データを含む読解力をつけさせなければ、AIにとって代わられるのではないかと思う。今回の活動はすべて素晴らしいと思うが、抜けをどうカバーしているか。中学校の事業も15校だけが対象というのが残念。全ての学校に司書が入ることが絶対条件。全自治体に公立図書館があり、そこが核となり、良い試みを行っているところを参考にしていくと、抜けはなくなるのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度から学校への携帯の持ち込みが可能となり、今後、高校生の読書活動は危機的な状況に陥るのではないかと考えている。使用は許可されていないところが多いが、数校の職員から、図書館利用が激減した。と聞くようになり、こっそり使っているのではないかと思う。今までのあり方の図書館だと携帯、スマホに負けてしまうのではないかと悩んだ。本年度統廃合となる学校図書館では、昨日すべての本が搬出された。片付けが中心で、企画もで

きなかった。今まで通りをやっていると高校の図書館は苦しい立場になると感じている。そうならならぬために、読書センターとしての役割だけでなく、情報センターや、学習センターとしての役割を充実させていく。ネットの情報を頼るのではなく、本を通して裏付けのある情報に接することが大事であると思っている。そのために、学校司書の力が大事と思う。本年度、図書担当に会計年度任用職員がいたが、片付けに力をとられ、色々なことができず残念であった。学校司書を全学校においてもらう。現在、朝9時から1時間短い勤務時間なので、朝の読書の時間にいてもらいたいのに、いてもらえない。フルタイムいて欲しいという声は聞いた。県から予算が付いているのに、実質別の仕事を兼務している学校があると聞いた。フルタイムで、専任で、と強く言ってもらえると司書教諭と共同して図書館本来の力が発揮できるのではないかと思う。読書で、図書館を利用して、仕事や実践に生かしていける人につなげていければと思う。